

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

I～IVはマーク式で、Vのみ記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

読解問題および一文要約問題のここ3年の総語数は「2,364→2,436→2,535」である。

出題の特徴

大問数・設問数・設問構成ともに、17年連続して同じパターンを踏襲している。大問Vの要約問題は、2017年度以降、あらかじめ与えられた書き出し部分に4～10語を加え、要約文を完成させる形式がつづいている。

その他のトピックス

文化構想学部と同一の出題形式である。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	(A)「黒人が感じる疎外感」(268 words) (B)「サンスクリット文学が与えた影響」(264 words)	空所補充問題 品詞や構文だけでなく、文脈などにも注意して解いていくとよい。本文や選択肢には難単語も含まれるが、それ以外の単語がわかれば対応できる。	標準
II	読解総合	(A)「多言語使用主義」(191 words) (B)「トーマス・カーライルの影響力」(241 words) (C)「恐怖の条件付け」(522 words)	内容一致問題、内容不一致問題 英文、選択肢ともに難解な表現は少なく、リード文や選択肢のキーワードを手がかりに、解答の根拠となる部分を見つけるのも容易である。なお、2021年度・2022年度には出題されなかったタイトルを選択させる問題が2年ぶりに出題された。	標準
III	読解総合	「異人種間婚姻への道を開いたラビング夫妻の法廷闘争」(613 words)	空所への文補充問題 代名詞などの指示語や論理指標といった手がかりに加えて、時系列や登場人物なども空所を埋めるヒントになる。(30)は、後に続く新聞各社の反応を要約することがポイントになる。	標準
IV	その他	会話文 インド人留学生同士の会話 (180 words)	空所補充問題 7つの空所に対して選択肢は13と多いが、空所に入れるべき品詞や文脈に着目すれば、検討すべき選択肢は絞れる。会話問題の形式をとってはいるが、実質的には文構造や語法がポイントになる。	標準
V	英作文	「フロイトにとっての“現実”」(256 words)	英文に対する要約文を完成させる問題。本文から連続した3語以上(例：a created reality)を借用することはできないことに注意。	やや難

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

長文読解問題では、話の展開を理解したうえで個々の設問の解答のカギになる記述を発見することが重要になる。設問の解答を導く根拠を探しながら英文を読む習慣をつけるとよい。空所補充の問題では、文脈に加えて文法・語法・語彙の知識も重要になるため、そのような知識を十分に定着させておく必要がある。大問Ⅴの一文要約の問題では、問題文と与えられた書き出しとの整合性を考えながら解答を書く必要がある。英文の要旨を把握する力が試されるので、日頃から論理展開を意識した読み方を心がけ、自分の言葉で (in your own words) 簡潔にまとめる練習を積んでいくのがよいだろう。